

4児父に創業融資

沖縄公庫 ひとり親支援第1号

沖縄振興開発金融公庫（川上好久理事長）は8日、ひとり親家庭の親の創業を支援できるように融資対象を拡大した「挑戦支援資本強化特別制度」（資本性ローン）の適用第1号として、ゴールドアックス（那覇市、池宮城聡社長）に500万円を融資したと発表した。



ひとり親の創業支援で資本性ローンの初適用を発表する（左から）ゴールドアックスの池宮城聡社長と沖縄公庫の安慶名忍上席調査役＝8日、那覇市の沖縄公庫

池宮城社長「育児しやすい職場に」

最終期限に一括償還する資本性ローンは月々の返済がわずらわしく金融検査上は自己資本としてみなされるため、過小資本で資金繰りに行き詰まらないよう創業時の財務体質の支援につながる。

ゴールドアックスは1月に設立し、光回線サービスへの加入を勧めるコールセンター業務を手掛ける。6月から事業を始めており、今後、従業員30人程度の採用を想定している。沖縄公庫はひとり親家庭の親の創業に加え、同じようなひとり親の採用や人材育成に取り組む方針を評価した。

4人の子を育てながら新規開業した池宮城社長は「資本性ローンでゆとりを持って人材の教育に当てることができる。短時間勤務

など育児しながらでも働きやすい勤務条件を提示しながら、保育園や学童に子どもを預けられない時にも気軽に連れてこられるような職場づくりに取り組みたい」と語った。

沖縄公庫融資第二部ひとり親支援担当の安慶名忍上席調査役は「コールセンターの開業では先行投資的に

人件費が発生するので、長期融資により資金繰りの安定につながる」と述べた。沖縄公庫は子どもの貧困対策の一環で今年4月から、新規開業を目指すひとり親家庭の親を支援するため、沖縄創業者等支援貸付と資本性ローン制度の融資対象を拡大していた。

ひとり親の創業支援

沖縄公庫が融資 収益確保まで優遇

沖縄振興開発金融公庫（川上好久理事長）は8日、コールセンター業のゴールドアックス（那覇市、池宮聡社長）に沖縄創業者等支援貸付で1400万円を融資したと発表

した。このうち、500万円は2017年度に拡充されたひとり親の創業を支援する挑戦支援資本強化特例制度を初めて活用した。

同制度は子どもの貧困対策



ひとり親支援で沖縄公庫から融資を受けたゴールドアックスの池宮聡社長（左）と、同公庫ひとり親支援担当の安慶名忍上席調査役（右）が、那覇市の同公庫

の一環で、ひとり親で起業する人を金銭面でバックアップする。収益性が確保されるまで最優遇金利が適用されるほか、借入金の元金返済は最終支払期日に一括して行われる

ため、毎月の支払額は低く抑えることができる。借入金は金融検査上の自己資本とみなすことができるため、信用力の向上も期待できる。担保・保証人は不要。

同社は1月に資本金600万円で設立。今回の融資を従業員採用や職場環境整備などに充て、ひとり親の就労の場を提供し、処遇改善も図る。従業員は3人だが、今後はパートやアルバイトを含め30人にまで拡充する方針だ。

池宮聡社長は「人材教育などを充実させたい。ひとり親だけでなく、子どもがいる家庭が安心して働ける環境をつくっていきたい」と話した。